

令和4年度 教育行政の点検評価 (令和3年度事業実績)



美祢市立於福小学校との遠隔合同授業（佐賀小学校）

令和4年11月
平生町教育委員会

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

主な取組の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

【施策】

知・徳・体の調和のとれた子どもの生きる力の育成・・・・・・・・ 7

子どもの「生きる力」を育む質の高い教育環境づくり・・・・・・・・ 9

人権教育の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

地域で支える子育て環境づくりの推進・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

生涯学習と文化活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興・・・・・・・・・・・・ 14

読書活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

社会教育施設や文化財等を活用した社会教育の充実・・・・・・・・ 16

【はじめに】

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の規定により、全ての教育委員会は、効果的な教育行政を推進するために毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、住民への説明責任を果たすことが求められており、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

これは、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たして行くという趣旨に則り行うものです。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の期間及び対象

点検・評価は、令和3年4月から令和4年3月の間で、「第五次平生町総合計画」「平生町教育振興基本計画」に基づき実施された事業で構成される施策を対象としています。

3 点検・評価の方法

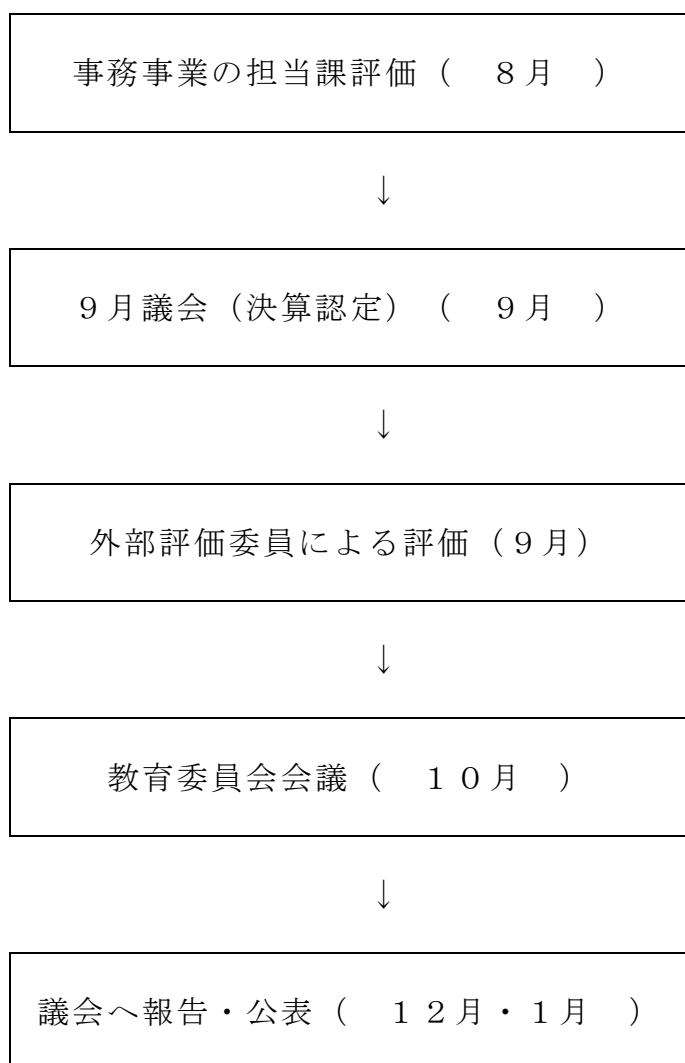
今年度から、点検・評価結果を次年度予算要求時の資料として活用できるよう点検・評価作業の着手を2ヶ月早め、8月から教育委員会による自己評価と併せ、教育行政評価委員による外部評価を実施しました。

法第26条第2項の規定による教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、教育委員会事務局が実施した自己評価による点検・評価の結果について、「平生町教育行政評価委員会」を設置し、下記の3名の委員から所見等をいただきました。

(敬称略)

	氏 名	所 属 等
委員長	清 時 学	学識経験者
委 員	中 田 政 明	学識経験者
委 員	福 山 圭 子	平生町小・中合同学校運営協議会長

4 実施フロー



5 まとめ

教育委員会の所管する事務の点検・評価については、教育委員会独自の自己評価（内部評価）に併せ、外部評価委員（教育行政評価委員）による対象事務事業の成果等の点検・評価を行いました。

学校教育課の目標は“自分に対する信頼を高め、「がんばり」と「優しさ」を発揮する子どもの育成”と定め、主体的・対話的で深い学びの実現、グローバルに活躍する力の育成等に努めました。小中学校において1人に1台配備したタブレット端末を活用し、「わかる授業」の実践や児童・生徒の「情報活用能力」の育成を図りました。さらにその充実しつつあるICT環境のもと、中学校ではオンライン英会話を実践し英語運用能力の育成に努め、生徒のアウトプット能力の向上につなげています。その他、子どもたちの自発的な学習意欲を支援するため、学び支援事業の実施、課題のある児童生徒や家庭の支援体制強化、特別支援教育の充実、家庭や地域との連携・協働を進めるコミュニティ・スクール事業などソフト事業を推進しました。

社会教育課の目標は、「学校・家庭・地域がつながる生涯学習の推進と学習成果活用の促進」とし、「ひらおカンガルー応援隊」による家庭教育支援の取組をはじめ、学校を拠点とした教育支援活動の充実、青少年健全育成活動や子ども会活動の充実を図りました。生涯学習の推進としては、町民憲章の具現化に向けた取組、花いっぱい運動、まちづくり出前講座の実施、人権学習講座の開催、文化団体が取り組む「ミニ文化展」等への支援、生涯学習サークルの紹介、生涯スポーツの推進などに努めました。また、武道館と歴史民俗資料館の照明をLEDに更新、文化財案内看板等改修、文化財等周辺やスポーツセンターの環境整備に努めるなど、ソフト・ハード両面において事務事業を推進しました。

今回、学校教育及び社会教育の8施策については、まずそれぞれの施策を構成する関係主要事業のコストや指標の分析・検証を行い、総合的に施策の進捗状況や課題、今後の方向性から内部評価を行いました。

各施策は目標どおり、あるいはほぼ目標どおりに進捗しているという評価をし、この内部評価をベースに教育行政評価委員による評価を受けました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業があるものの、おおむね各分野で効果的に事業展開ができているという評価をいただきました。また一方で、具体的な取組みやスケジュールを明確にすることや町民へのアピールの必要性などのご提言をいただきました。新型コロナウイルス感染症の影響は今後も続くと予想されますが、各施策や各事業において工夫をこらしながら取組を進めていきたいと思えます。

今回いただいたご提言やご指摘を生かし、「平生町教育振興基本計画（令和3年度～令和7年度）に基づく施策や事業を実践し、効果的な教育行政の推進に努めます。

主な取組の成果

主体的・対話的で深い学びの実現

GIGA スクール構想の1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク環境等の整備が完了し、「整備された環境の利活用を推進する」フェーズに移行した。

1人に1台配備された端末の使用方法やルールを学校・保護者及び子どもたちと確認し、授業では、検索サイトを活用した調べ学習、一斉学習や協働学習等で活用を広げた。

2学期からは、家庭への持帰りを開始し、授業の振返りや端末に導入したドリル教材等を活用するなど、一人ひとりの学習状況に応じた家庭学習の充実に努めた。

家庭への持ち帰りを常態化したことで、新型コロナウイルス感染症の影響による学年閉鎖時等には、学校と家庭をオンラインでつなぎ、日々の健康観察や課題の提示・提出などに利用するなど感染症対策と子どもたちの健やかな学びの保障の両立に活用することができた。

グローバルに活躍する力の育成

英語指導助手（ALT）2名体制で、中学校、小学校及び幼稚園の英語教育の充実を図った。

外国人講師とのオンラインによる英会話授業は、自分の英語が伝わった喜びを感じること、伝わらなかった時の振り返りによって、英語によるコミュニケーション能力の向上につながった。

学び支援事業として、実用英語技能検定の検定料の1/2を助成することで子どもたちの自発的な学習意欲を喚起し、学力の向上を図った。

ICT教材を使用して課題解決のための手順を考え、その手順を視覚化し、文章や図を使って説明する等の学習を重ねることで、情報技術をうまく活用してよりよい社会を築いていこうとする態度や「プログラミング的思考」の育成を図った。

個に徹した教育をめざす取組の充実

小中学校に学校支援員を配置し、学習習慣の定着や個別指導の充実など、学力の向上を目指した指導を行い、個に応じたきめ細かな配慮のある教育を推進した。

また、特別な支援が必要な子どもたちへの適切な指導と支援のために支援員を配置することで、生活や学習上の困難の克服の支援に努めた。

学校における働き方改革の推進

学級だより・会議資料等の印刷業務や教材教具の準備・片付けなど教職員の事務的業務を補助する学校業務支援員を配置することで、教員の長時間勤務を是正し、学校の指導・運営体制の充実を図った。

中学校において、専門的な知識・技能を有する部活動指導員を配置することにより、教職員の部活動指導に係る時間を軽減し、教材研究や生徒との面談等の時間確保や経験のない競技などの指導による心理的負担の軽減に努めた。

学校安全の推進

老朽化が進みつつある各校において、年次的に改修工事を施し、児童生徒の安全・安心の確保に努めた。課題である給食施設については、専門業者からの報告による知見をもとに庁内委員会で検討し、選択肢を絞り込んだ。

地域力を活用した通学路の安全を確保する取組として、県の学校安全総合支援事業で拠点校に指定された平生小学校において、コミュニティ・スクールの仕組みを活用して研修会、通学路合同点検、安全マップ作成を行った。

人権教育の推進

一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会づくりを推進するため、平生町人権学習講座を開催し、人権意識の高揚を図った。

広報ひらおにおいて、人権コラム「つながり めくもり」を隔月掲載し、啓発活動に努めた。

地域で支える子育て環境づくりの推進

地域学校協働活動推進員や地域コーディネーターの配置により、幼稚園を含む学校と地域の連携・協働がスムーズになり、地域住民による学校支援ボランティア活動が活性化した。

学校と家庭をつなぐ役割を担う「ひらおカンガルー応援隊」による家庭教育支援は、令和3年度から中学校においても活動が始まり、よりきめ細かな支援体制が整った。

地域で子どもを育てるまちづくりの推進を目指し、青少年育成町民会議等との連携により、コロナ対策を講じながら、子どもたちが地域住民と交流できる行事の企画や、登下校時の見守り活動に取り組んだ。

また、中学生・高校生が地域活動の運営サポートとして参加・貢献できる「中高生ボランティア活動」について、支援体制を整えた。

生涯学習と文化活動の推進

生涯学習の推進については、町民憲章の具現化・花いっぱい運動・町職員が講師となるまちづくり出前講座等に取り組み、町民への学習機会の提供・啓発に努めた。

生涯学習活動の拠点となる地域交流センターを所管する地域振興課と連携し、地域交流センター主催講座等の情報共有に努めた。

教育委員会主催の生涯学習講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ほとんどの講座を中止した。

芸術文化活動においては、町の芸術文化活動の推進を担う、町文化協会・町音楽協会の活動を事務局として支援し、コロナ禍に対応した活動発信に取り組んだ。

生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興

「平生町スポーツ推進計画」改定版の基本理念「スポーツで人とまちをつなぐ 元気な平生」の実現を引き続き目指し、コロナ禍の中、感染対策を講じ、縮小・工夫してできるものについては実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ほとんどの行事を中止した。

令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、5月に地域部活動検討委員会を立ち上げ、協議を進めている。

読書活動の推進

令和3年3月に策定した「第三次平生町子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの読書活動を推進するため、ブックスタート・親子ふれあい絵本事業、夏季休業中に移動図書館、学校等に児童書の配達等を実施した。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、臨時休館により子ども向けや一般向けの様々な取組が中止を余儀なくされた。

社会教育施設や文化財を活用した社会教育の充実

施設の維持管理については、武道館及び歴史民俗資料館展示室の照明を水銀灯からLEDに改修し、光熱費の削減を図るとともに利用者の利便性の向上を図った。

図書館において、「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」の図書館パワーアップ事業の活用により、一部の書架を更新し、書籍を探しやすくする等、快適な利用環境を整えた。

文化財関係では、県の「ゆめはな開花プロジェクト推進事業補助金」を活用し、案内看板の改修や環境整備に取り組んだ。

また、地元の郷土芸能を地域の小学生が鑑賞する機会の提供や県との共催で歴史講座を開催する等、地域の文化財に親しむ機会の充実に努めた。

阿多田交流館においては、周辺環境の変化等に対応し、来館者用パンフレットの内容を一部見直し、増刷を行った。近年、社会見学や総合学習での学校単位の来館が増加傾向にあることから、児童・生徒用資料の作成にも取り組んだ。また、人間魚雷回天関連資料を有する施設として、平和教育を継続的に推進するため、館内説明マニュアルを整えた。

施策評価シート

(評価対象年度：令和3年度)

基本目標		02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】	担当部署	学校教育課
施策	02-09	知・徳・体の調和のとれた子どもの「生きる力」の育成		総合評価	B

1 目指す姿

高い志と広い視野を持って、可能性に挑戦する子どもが育成されるまちを目指す。
一人ひとりの願いや思いを志に高め、確かな学力を基盤とした広い視野を持って、希望を持ちつつ、未知なるものへ進んで挑戦する態度や困難を乗り越える態度、新しいものを取り入れようとする態度を身に付けた子どもを育てる。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和4年 7月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力面では全国学力・学習状況調査において、中学校で県平均並み、小学校では県平均を上回る結果となった。 ・ 自己肯定感に関する調査において、中学校では8割を超え高い水準を維持しているが小学校は6割程度で全国平均を下回る結果となったが、令和元年度より増加した。 ・ 体力向上面では、全体的に平均以上の体力を兼ね備えているが、極端に柔軟性の低い生徒と高い生徒の差が大きく、中学校においては点数が減少した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力面では、条件に沿って記述させる問いや割合を求める問い、情報活用を問う問題に課題が見られ、引き続き計算力を土台にしながら自分で解決する能力をつける必要がある。 ・ 若手教員が増加しているため、教師の指導力（学級経営、児童理解）の底上げが必要である。 ・ 柔軟性の向上のため、学校では体育の時間を活用してストレッチ運動を取り入れているが、家庭でも習慣化する必要がある。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
全国学力・学習状況調査の平均正答率	%	目標	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	—
		実績	小6 国：全国平均をやや上回る 算：県平均を上回る 中3 国：全国平均並み 数学：県平均並み					

自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	%	目標	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	—
		実績	小6 60.2% (↑) 中3 82.9% (↑)	※(↑):前年度実績との比較				
全国体力・運動能力等調査における体力合計点	点	目標	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	—
		実績	小5男: 51.1点 (↑) 小5女: 54.6点 (↑) 中2男: 44.3点 (↓) 中2女: 49.6点 (↓)	※(↑):前年度実績との比較				

4 施策の方向性

親子でのふれあい遊びやストレッチ運動を家庭学習の一つにするなど、習慣化に向けての取組みを検討する。

5 関係主要事業

事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
オンライン英会話	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持
学び支援事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持
体力向上プログラム	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	B	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の基礎になる部分が不足していると感じる。暗記力など基本となる能力を身につけさせる取組を期待する。 ・チャレンジすることの大切さを学ばせるため、英検受検料助成は継続されたい。 ・各地域コミュニティ協議会で行われているラジオ体操会への参加を勧め、ラジオ体操を習慣化してはどうか。柔軟性の強化はけがの防止にもつながり有効ではないか。
------	---	--------	--

施策評価シート

(評価対象年度：令和3年度)

基本目標		02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】	担当部署	学校教育課
施策	02-10	子どもの「生きる力」を育む質の高い教育環境づくり		総合評価	B

1 目指す姿

ICTを生かした一人ひとりの個別最適化された学びや創造性を育む学びを実現するとともに、誰もが相互に支え合い、子どもたちが多様なあり方を相互に認め合える共生社会の形成に向けられたインクルーシブ教育システムの構築を目指す。また、常に子どもたちの前でエネルギーにいられる教師であるために、教員の働き方改革を進め、新しい学習指導要領に示す「質の高い授業の提供」に結びつける。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和4年 7月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業以外の校内活動においても、異学年間で積極的にICTを活用する場面がみられた。 ・ 教員の時間外勤務時間削減のための外部人材の活用において、中学校を除く教員の時間外勤務は減少した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動指導員、ICT支援員等、専門的な技術を必要とする業務の人材確保が課題である。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
教員の児童生徒のICT活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合	%	目標	小：80 中：80	小：80 中：80	小：80 中：80	小：80 中：80	小：80 中：80	—
		実績	小：91.4 中：86.8					
教員1人あたり1カ月時間外業務時間	時間	目標	小：41.6 中：69.3	小：39.0 中：65.5	小：36.3 中：61.6	小：33.7 中：57.8	小：31.0 中：53.9	—
		実績	小：39.9 中：69.3					

4 施策の方向性

人材確保に努め、年度当初から効率的に稼働できる体制をとる

5 関係主要事業

事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
ICT支援員配置事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持
学校業務支援員配置事業	A	業務の内容は適切である	A	事業拡大・費用拡大
部活動指導員配置事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	B	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革には抜本的な対策が必要である。 ・多様なノウハウを持った専門員を配置できる取組を考えられたい。 ・教員以外の大人とふれ合う機会として有効である。 ・様々な業種の人が学校を支えている実情を理解させる事業になっている。 ・PTAの人にも時代が変わる中で、子どもを取り巻く環境も変わっていくことを知ってもらう必要がある。
------	---	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和3年度)

担当部署	社会教育課
総合評価	A

基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】
施策	02-11	人権教育の推進

1 目指す姿

「山口県人権推進指針」および「山口県人権教育推進資料」を活用する取組により、住民一人ひとりの人権が尊重された誰もが笑顔で住むことができる心豊かなまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和4年7月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・平生町人権教育推進協議会において、学校・家庭・地域社会における、さまざまな人権教育について協議を行い、取組みを進めている。 ・地域における学習機会の充実を図ることを目的に開催する平生町人権学習講座には、町内学校教職員の参加もある。 ・町広報誌（広報ひらお）で、人権コラム『つながりぬくもり』により、啓発に努めている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「平生町人権学習講座」は、毎年受講される人もいるが、小中学校を通じた保護者世代や、町内企業の従業員に周知をする等、幅広い世代に受講してもらえるような取組みが必要である。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
人権学習講座参加者数（3日間の合計）	人	目標	125	140	150	160	170	100.0%
		実績	125					
「広報ひらお」への人権コラム『つながりぬくもり』の掲載回数	回	目標	6	6	6	6	6	100.0%
		実績	6					

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名		分析・検証結果		今後の方向性
平生町人権学習講座	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持
人権教育啓発事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど学校の先生が参加されている。保護者の方にもっと関わってほしい。 ・保護者の参加につながるよう、人権学習講座を学校で開催することができないか。 ・人権学習講座への参加者が増えるよう、町民に浸透するよう、参加者の増加に努めてもらいたい。
------	---	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和3年度)

		担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価
施策	02-12	地域で支える子育て環境づくりの推進		
				A

1 目指す姿

学校・家庭・地域が連携した家庭教育、子育てサポートを充実させ、地域で子育てを支えるまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和4年7月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働推進員や地域コーディネーターの配置により、地域と学校の連携がスムーズになり、特色ある地域協育ネット事業が幅広く展開されている。 ・青少年育成町民会議や町子ども会との連携により、さまざまな体験機会を提供できている。 ・地域協育ネットの事業に、中高生ボランティア活動を立ちあげ、町内学校の中高生が、地域の行事にボランティアとして参加できる体制が整った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア協力者の高齢化等により、休止となっている活動があることから、人材確保や内容の見直し等、再開に向けて早急に体制を整える必要がある。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
学校支援ボランティアなどにより学校を訪れる地域の方の人数	人	目標	6,300	6,400	6,500	6,600	6,750	100.0%
		実績	6,301					
地域協育ネットコーディネーター養成講座修了者数	人	目標	6	7	7	8	8	100.0%
		実績	6					

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	家庭教育支援について、家庭教育アドバイザー養成講座受講者、ひらおカンガルー応援隊のメンバーを増やし、より手厚い支援を目指す。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名		分析・検証結果		今後の方向性
家庭教育支援事業	A	業務の内容は適切である	B	事業拡大・費用維持
地域協育ネット	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	・目標値に沿った人員確保を期待する。
------	---	--------	--------------------

施策評価シート

(評価対象年度： 令和3 年度)

		担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価
施策	02-13	生涯学習と文化活動の推進		
				A

1 目指す姿

情報化社会に対応できるようなオンラインを通じた学習など、住民の誰もが、生涯を通して健康で生きがいのある人生を送ることができる生涯学習社会の実現に向けて、生涯にわたって学べる環境や体制を整え、「生涯学習のまちづくり」を進める。また、芸術文化活動による潤いに満ちた心豊かな生活の実現を目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和4年 7月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・花いっぱい運動は、チラシ作成により、運動への参加と苗配布を呼びかけたことにより、多くの人に関心を持ってもらえた。 ・まちづくり出前講座は、コロナ禍における制限もあり、申込み件数が少なかった。 ・伝統文化の継承への取組として、地域行事の開催見送りにより、鑑賞することができない地域の郷土芸能活動（神舞）を、地元小学校で鑑賞する機会を提供した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動の充実に向けて、活動の拠点となる地域交流センターとの情報共有や事業連携により、人材発掘や人材育成に目を向けていく必要がある。 ・芸術文化活動のうち、音楽分野における活動については、コロナ禍による影響が大きく、鑑賞会等の再開時期について判断が難しい状況にある。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
文化協会への加入団体数	団体	目標	10	10	10	11	11	100.0%
		実績	10					
音楽協会への加入団体数	団体	目標	11	11	12	12	13	100.0%
		実績	11					
花いっぱい運動 コンクール参加団体・個人数	団体・人	目標	24	25	25	25	25	104.2%
		実績	25					

4 施策の方向性

ビルド	新規	変化の激しい社会に対応した新しい生涯学習スタイルとして、オンラインによる学習機会の提供等について検討する。
	拡大	文化展や音楽祭の運営について、個人単位での参加を検討することにより、新たな人材発掘・人材確保に努める。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名		分析・検証結果	今後の方向性	
芸術文化推進事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持
花いっぱい運動コンクール	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	・美しい環境づくり等が町民の余暇の楽しみ方につながるよう取り組んでほしい。
------	---	--------	---------------------------------------

施策評価シート

(評価対象年度： 令和3年度)

担当部署 社会教育課

基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】	総合評価	B
施策	02-14	生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興		

1 目指す姿

住民誰もが、ライフステージを通じて、それぞれの体力や関心、適性などに応じて、スポーツに親しみ、スポーツを楽しむことができる環境が整い、健康および体力の保持促進、障がい者スポーツが盛んなまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和4年7月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の休日部活動の地域移行をめざして地域部活動検討委員会を5月に立ち上げ、全体会を2回、部会を1回開催した。3つの部活動について、部活動指導員の制度を活用して休日の地域部活動への移行の準備ができた。 ・ ファミリースポーツ・レクリエーション大会については、令和3年度はコロナ禍のため中止となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度から段階的に中学校の休日部活動を地域に移行するためには、人材確保や受け入れ体制の確保が必要である。 ・ ファミリースポーツ・レクリエーション大会については、参加者が増加するような競技の検討が必要である。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
休日の地域部活動の実施		目標	検討する	検討する	準備する	実施する	実施する	-
		実績	検討した					
ファミリースポーツ・レクリエーション大会参加人数	人	目標	400	400	420	440	460	-
		実績	中止					

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	地域部活動検討委員会に組織づくり部会を開催し、地域での受け皿や新たな組織の検討を行うとともに、人材確保の充実を図る。休日の部活動について、生徒や保護者等にアンケートを行いニーズを把握する。部活動改革の概要やアンケート結果、部活動の現状等を広報に掲載し周知を図る。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
休日の地域部活動	A	業務の内容は適切である	B	事業拡大・費用維持
ファミリースポーツ・レクリエーション大会	B	課題が少しあり業務の一部見直しが必要	D	事業・費用とも維持

外部評価	B	評価委員意見	・ 休日の部活動の地域移行については、計画の検討段階のものである。少子化の中、有効性のあるものが望まれる。
------	---	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和3年度)

担当部署 社会教育課

基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】	総合評価	A
施策	02-15	読書活動の推進		

1 目指す姿

図書館が、生涯学習の拠点として気軽に楽しく学ぶことができる場となるとともに、多くの本と出会う環境の中で、本を通じて住民一人ひとりが心豊かな生活を送れるまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和4年7月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> 読書は、豊かな情操を育み、人格形成をしていく上で大きな役割を担うことから、蔵書の充実を図ると共に、ブックスタート・親子ふれあい絵本事業や移動図書館事業等により、乳幼児の時期から本に触れる環境の提供、長期休業中の子どもへの読書機会の提供に努めている。 「第三次平生町子ども読書活動推進計画」に基づき、広報や図書館ホームページを活用した情報発信に取り組んでいる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 読書ボランティアによる読み聞かせ等、学校における読書活動には取り組んでいるが、コロナ禍で開館制限もあったことから、図書館主催事業については、計画どおりに実施できなかった。 図書館利用促進のための情報発信手段として、ホームページの周知強化が必要である。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
町立図書館年間貸出者数	人	目標	11,000	12,000	13,000	14,000	14,600	101.0%
		実績	11,107					
町立図書館年間貸出冊数	冊	目標	58,000	59,000	60,000	61,000	62,400	100.6%
		実績	58,362					

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	図書館ホームページへの閲覧数増加を図るため、検索のしやすいQRコード等を活用する。 新規利用者数の増加につなげるため、SNSを活用する等、町立図書館の新たな情報発信方法を検討する。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名		分析・検証結果		今後の方向性
図書館蔵書充実事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> 読書は教育の基本である。ホームページ等の強化も含めて、継続して取り組んでもらいたい。 自治会に加入していない方もあり、回覧物に目を通せない人への情報発信に一層力を入れてほしい。
------	---	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和3 年度)

担当部署 社会教育課

基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】	総合評価	A
施策	02-16	社会教育施設や文化財等を活用した社会教育の充実		

1 目指す姿

自分たちの住む地域の歴史や文化を伝えるため、文化財を身近に感じてもらうとともに、そのものの魅力を高める。あわせて、社会教育施設の機能が充実したまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和4年 7月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備においては、周辺環境変化に対応し、阿多田交流館来館者用パンフレットの内容を見直し、増刷を行った。また、館内説明マニュアルや児童・生徒用パンフレットの作成に取り組んだ。 文化財看板整備では、佐賀小学校前の看板内容を改め、佐賀地域文化財の紹介を追加した。 県との共催により、専門家の説明を受けながら町内古墳を巡る歴史講座に取り組んだ。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 文化財環境整備事業については、県補助事業（ゆめはな開花プロジェクト推進事業）終了後の財源確保が必要となる。 歴史講座や特別展の企画・開催については、コロナ禍に対応したオンライン等も視野に検討をする必要がある。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
文化財の指定数	件	目標	16	16	16	16	16	100.0%
		実績	16					
歴史講座、特別展示の開催	回	目標	1	2	2	2	3	100.0%
		実績	1					

4 施策の方向性

ビルド	新規	歴史民俗資料館・民具館について、館内説明マニュアルの作成を検討する。
	拡大	阿多田交流館で作成した館内説明マニュアルを活用し、コロナ禍での入館制限等を見据え、音声ガイダンスの導入を検討する。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
文化財整備事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	・私たちの住んでいる平生町を誰もが紹介できるように町民形成が望まれる。
------	---	--------	-------------------------------------